

高橋ふじお 議会だより



vol.4

発行：令和5年4月

ごあいさつ

令和5年度がいよいよ動き出しました。世の中を一変させた新型コロナウイルス感染症もやっと終息を迎え、新たな生活が始まろうとしています。2類から5類への移行の手続きがどんどん進んでいますが、平常の生活に戻りつつある今、また新たな気持ちで皆さまの声をしっかりと聴き、市議会議員として今後の市政に一生懸命取り組んでいく所存であります。

出雲市議会議員 高橋 扶治夫

令和5年度 一般会計当初予算総額 893億円

(歳入) 自主財源(市税、負担金、使用料、手数料、諸収入など)	325億3,521万円
依存財源(各種交付金、地方交付税、国県支出金など)	567億6,479万円
(歳出) 義務的経費(人件費、扶助費、公債費など)	406億6,300万円
投資的経費(普通建設事業債、災害復旧費など)	170億5,300万円
その他行政経費(物件費、補助費等、繰出金など)	315億8,400万円

今回は新年度に当たり、出雲市として力を入れて取り組む事業の内容を抜粋でお知らせします。

◆ 社会経済活動の再生と更なるステップアップに向けた取組

● ミライビジネスいずも運営事業

本年4月に設立されるNPO法人ミライビジネスいずもに、企業活動を拡大するための各種事業を委託し、地域経済の活性化を図るもの。

◆ 人口減少対策

● 出産・子育て応援交付金事業

妊娠時から出産・子育てまでの伴奏型相談支援の充実を図るとともに、子育て家庭への経済的支援を一体的に実施するもの。

◆ 民間企業等と連携し、本市の活力を高める取組

● IT企業スタートアップ支援施設整備事業

IT企業・IT人材の誘致等を目的に、バルメイト出雲1Fにレンタルオフィスやコワーキングスペースを整備する。出雲市がIT産業を基幹産業として目指す全国的に珍しい取組。

◆ 脱炭素社会、環境保全への取組

● ゼロカーボンシティ加速化事業

再生可能エネルギーを創出し、そのエネルギーの地産地消を進めることで地域内経済の好循環を生み出しながらゼロカーボンシティの実現を加速させるもの。



高橋ふじおの一般質問

出雲市の公共施設の適正管理について(令和4年12月議会)

問 公共施設について、2市5町の合併によりたいへん多くの建築物を保有することとなり、類似する施設も多数ある状況となった。行財政改革の一環として様々な公共施設の見直しをしてきたが、市全体の公共施設の保有量の適正化は進んでいるのか、延床面積の削減率と全体的な成果、そして市全体の公共施設の保有量の適正化の課題と今後の方針を伺う。



※イメージです

答 対象施設のうち61施設について、廃止または使用中止・民間譲渡・地元移譲・管理改善・用途変更の五つの見直し方針を定め、本年度末までに31施設が完了する。延床面積を約3万9,000平方メートル削減したことになり、出雲市公共施設総合管理計画の延床面積の削減目標20%に対し10,6%に相当する。また見直しを進めるには、地元住民や利用者への理解が必要であり、取組の完了までには時間を要することが課題である。令和5年以降の第2次公共施設のあり方指針では、139施設を対象とし、統合・複合化の方針を新たに加えて見直しを進め、公共施設の保有量の適正化に取り組んでいく。

出雲市民会館やその他の市民ホールについて(令和4年12月議会)

問 出雲芸術アカデミーの拠点となっている出雲交流会館は老朽化が進んでいるが、その拠点を出雲市民会館やビッグハート出雲に移すべきではないか、また市内にある市民文化施設の中の出雲市民会館やその他の市民ホールの今後の計画や方針を伺う。



※イメージです

答 老朽化により他の施設への移転が必要と考えているが、出雲市民会館やビッグハート出雲については、年間150回を超えるアカデミー講座の開催の維持には他の団体等の利用機会が制限され、この施設を活動拠点として占有することは難しい。出雲芸術アカデミーの移転先は、協議し早期に方針を決定したい。また本市の持つ多くの文化施設は、多様な芸術文化活動や交流活動にも活用されており、地域のシンボリック施設も多い。安全性や経済性を踏まえつつ可能な修繕を行い、施設の長寿命化を図っていき、今後の出雲市公共施設のあり方指針の中で検討していく考えである。

出雲市の公用車の安全運転対策と適正なあり方について(令和5年3月議会)

問 公用車には多額の維持管理費用を必要としている。市の財政健全化のためにも、市民サービス向上のためにも経済的・効率的な運用が求められており、適切な車両管理や交通安全対策、環境対策などが必要である。また車両台数の適正化を求めつつ、公用車の脱炭素化や防災力強化、デジタル化による車両管理の一元化など伺う。

- ① 令和3年度の保有台数と30台以上保有する部署ごとの台数。
- ② 令和3年度について人身・物損の交通事故件数と公用車の維持管理費の金額。
- ③ 車両台帳や車検等の管理状況他、出雲市職員に対する安全運転対策の取組状況。
- ④ 公用車は適正な台数か、リース車両の今後のリースに対する見解。
- ⑤ 公用車の電気自動車は現在何台あり、電気自動車による脱炭素化に向けた今後の見解は。
- ⑥ 公用車の管理事務全体のデジタル化に向けた取組は。

- 答**
- ① 令和3年度について、すべての公用車では615台、30台以上保有する部署は、管財契約課128台、自治振興課43台、教育政策課76台、消防総務課61台、警防課135台。
 - ② 人身事故はなし、物損事故は28件、維持管理費は1億9,200万円。
 - ③ 安全運転対策について車両台帳は表計算ソフトで管理、運転日誌、日常点検は紙ベースに記入管理、給油は給油チケットを使用し請求書を集計把握、車検は車両台帳での管理と、ダッシュボードに次回車検日のシールを貼り注意喚起。年1回交通安全研修を実施し、日頃から所属長が職員に対し安全運転の指示・啓発を実施。
 - ④ 管財契約課所管の公用車は、平成25年度に183台、現在は128台まで削減し適正な台数を配置、今後は特殊車両を除き、リース車両の割合をさらに増やしていく。
 - ⑤ 電気自動車は4台、今後は、出雲市環境総合計画にも即し、電気自動車等の導入を進めていく考え。
 - ⑥ 内部事務処理システムによる公用車の予約管理、管財契約課が確認し公用車を貸出、また、車検・タイヤ交換・給油量の管理などは各課で表計算ソフトを使用した車両台帳で管理。

<補足>

再質問にて、車のディーラーとの災害連携協定による停電時における電気自動車の利用拡大について提案し、前向きな答弁を得た。これによって脱炭素化や防災力強化につなげることができる。また、公用車管理システムによる全庁的な一元管理体制を提案し、これも前向きに検討していくとの答弁があった。これが実現すれば職員の負担が軽くなり、その分市民サービス向上に力を注ぐことができるようになる。



3月議会全景



※イメージです

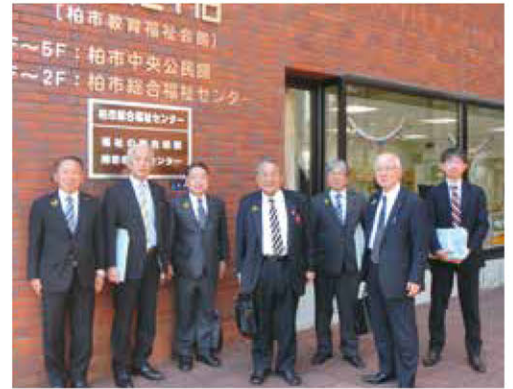
最近の主な活動内容



新内藤川・赤川対策協議会視察



豊橋市視察



千葉県柏市視察



斐伊川・神戸川沿川対策協議会



出雲産業未来博

12月議会にて出雲市議会政治倫理条例を制定

私が市議会議員になって初めて新たな条例を制定することに、最初から関わることができました。制定にあたっては、私が所属する議会運営委員会の皆様と共に熊本市議会・八女市議会・諫早市議会など視察に出かけ、いろいろと意見交換し貴重な意見をいただいた結果だと深く感謝しております。



熊本市議会視察



この議会だよりも4回目の発行となりました。一般質問については「もっと詳しく知りたい」とか「質問してもらって良かった」など、いろいろな声を聞かせて頂いています。本当に有難く感謝しております。一般質問とは関係なくても、いま出雲市はどのように考えているだろうかというような疑問などあれば是非お聞かせ下さい。少しでも多くの方々の声を市政に届けたいと考えていますので、お気軽にお声掛け頂ければと存じます。

発行者：出雲市議会 真誠クラブ 編集者：高橋扶治夫(ふじお)

〒693-0074 出雲市東林木町 1434-2

TEL 090-7129-1539

E-mail : fuzio0728@gmail.com

高橋ふじお 出雲

検索

高橋ふじおHP 更新中!▷

Check! /

